

瀬戸内地方の観光資源

野村 康則・古山 友則

Sightseeing Resources of the Setouchi Region

Yasunori NOMURA and Tomonori KOYAMA

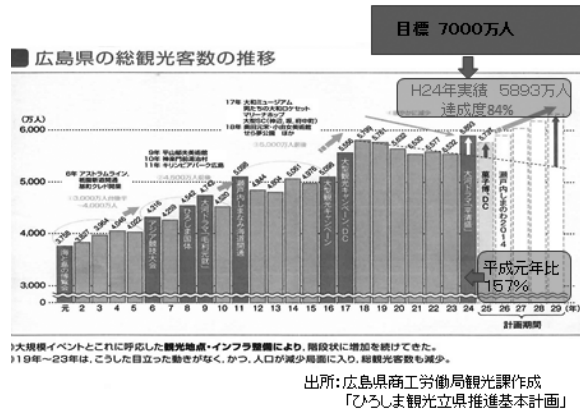
要 旨

広島県は奈良県と並んで厳島神社と原爆ドームという2つの世界遺産を持つ日本でも有数の観光立県である。平成27年度の観光客数は6618万人で前年度より437万人の増加(+6.6%)となり、平成元年以降増加の一途を辿ってきた。その背景には瀬戸内沿岸部の島しょ郡が架橋されたことがある。特に平成11年に開通した「瀬戸内しまなみ海道」の完成が大きく貢献している。瀬戸内地方は平成24年の大河ドラマ「平清盛」に次ぎ、平成27年の「黒田官兵衛」と2度にわたり取り上げられたことも奏功した。本論では広島県呉市から架橋された島しょ部及び近隣の瀬戸内地方の再生と観光について取り上げる。

Key Words : 広島県, 観光客数, 観光消費額, 瀬戸内沿岸部, 呉市, 古民家再生

1. 緒 言

広島県は「ひろしま観光立県推進基本計画」を策定し、平成20年から平成24年までの観光関係の目標数値を公表した。広島県HPによると広島県の①総観光客数は「瀬戸内しまなみ海道」が開通した平成11年には、広島県観光客数がはじめて5,000万人を上回り、16年後の平成27年度は6,618万人へと大幅に増加したが、平成24年度の目標として掲げた7,000万人には大幅に未達である。②外国人観光客数目標は平成24年度に80万人と計画していたが、平成27年度の実績は倍増の166万人となった。国別にはアメリカ、台湾、中国、オーストラリアの順である。③観光客が本県において交通費、宿泊料、みやげ品代、飲食代、入場料などに消費する観光消費額総額の平成24年度目標値は4,000億円であったが平成27年実績は3,865億円で、目標値には未達であるが、前年に比べて255億円(7.1%)の増加となり、過去最高値となった。このように②の外国人観光客数を除いては基本計画の目標値は達成していないものの、近年、広島県は芸能人を多数観光大使として活用し、観光に力を入れているのは目を見張るものがあり、実績もそれなりに増加している。本論では観光の立役者となっている瀬戸内沿岸をとりあげ、広島県及び近隣の観光推進の一助となることを目的とする。



図表1 広島県の観光客数の推移

第1章 福山市について

福山市の平成27年度における観光客数実績は7,269千人、前年度比107.6%であった。県内における観光客数では広島市、廿日市市に次いで第三位である。¹

福山市は人口面で広島県第2の都市である。JR福山駅の正面には福山城が聳（そび）えている。美しい城ではあるが歴史の舞台には登場しない。福山城は元和8年（1622年）に水野勝成が完成した。新規の築城としては近世城郭で最も新しい城で、備後福山藩の居城であった。天守は昭和20年（1945年）まで残されていたが福山大空襲により焼失している。現在の建物は昭和41年（1966年）に月見櫓、御湯殿と共に復興された。

1. 鞆の浦

鞆の浦は福山駅から車で約30分ほど走った海岸沿いにある歴史上由緒あるまちである。ここは古くから万葉集の伴旅人の歌にも詠まれた全国でも最古の歴史を持つ港町で江戸時代には山陽の街道筋として参勤交代や、海路の停泊地として栄えた大都市であった。

(1) 澤村船具店倉庫

2013年6月17日（月）中国新聞に掲載された記事によると、「福山市鞆の浦の鞆町にある澤村船具店所有の2階建て町家が17世紀後半に建築された可能性があるととして広島国際大学の某教授が調査を進めている。」また同教授によると「現存する日本最古の2階居室型の町家」とも言われている。この記事をもとに澤村船具店を訪問した。店主の女性がわざわざ我々の為だけに、本来公開していない古い町家を見せてくれた。間口は約3間（6m）、2階建て、切妻造りの当時としては標準的な規模の家で、2階の高さは1階と同程度で街路に面し居室と大きな木格子窓がある。土間が広い点が古い建築様式で土間境に板戸を立てている点も鞆の浦の他の家に見られない様式で、2階が正面側しかないこと、2階の梁が細身で直線的であることも他の鞆の浦の家に見られないことから鞆の浦の町家の変遷を知る上で第1級の遺構である。

¹ 広島県HP「平成27年広島県観光客数の動向」～調査結果の概要引用



写真1. 澤村船具店 筆者撮影

前述記事によると1660～1670年代の建築物であろう、とのこと。店主の説明では、建物は老朽化が進み、屋内は倒壊防止の鉄柱が沢山立てられており、左右の建物に支えられてかろうじて残っているようである。

(2) 太田家住宅



写真2. 太田家住宅 筆者撮影

重要文化財に指定されている太田家住宅がある（福山市鞆町842）。現在はボランティアにより保存が行われている。太田家は18世紀中期から建築されたもので保命酒屋の中村家が家屋を購入し、拡張・増築を行い明治期に太田家が受け継いだものである。歴史的には、東海道の宿場町であり、参勤交代のため、西国の大名が大勢の侍を引き連れて移動する際の宿場として栄え、元禄時代に朝鮮通信使が鞆の浦を訪問した際の宿となったことや、維新に三条実美公等いわゆる「七卿落ち」として有名な一行が長州へ落ち延びる際に立ち寄った

場所としても有名である。建物は保命酒醸造蔵など9棟からなる膨大な敷地であり、当時の粋を凝らした純和式のもので、風通しがいいように設計されている。建物の中央部分には茶室もあり、当時は優雅な生活が営まれていた様子が窺えた。最盛期には50名程度が住んでいたようである。

(3) 坂本龍馬ゆかりの地



写真3. いわは丸展示館

写真4. 龍馬の隠れ屋（桑田家）
筆者撮影

慶応3年（1867年）5月26日に鞆沖合いで起こったいわは丸と和歌山藩明光丸の衝突事件の概要を展示する展示館がある。海底20mに眠るいわは丸の一部を原寸の70%で再現したもので、引き上げられた物を見ると、

龍馬が主張した膨大な積荷は見当たらない。龍馬は当時日本では誰も手にしていなかった「万国公法」なるものを根拠として持ち出して、55万石の紀州藩を相手に、海援隊が、総掛りで賠償の交渉にあたった。お互いに航海日誌を提出し、衝突の原因と、責任について激しい攻防戦が行われた。その交渉の場所となったのが海岸沿いにある對潮樓^{たいしやうろう}である。ここ對潮樓は朝鮮使節などを受け入れた場所でもある。また龍馬が紀伊藩との交渉時に宿泊宿（隠れ屋）として使用した家（桑田家）が現存している。隠れ屋にしては海岸から50m程度の角地にある。

第2章 尾道・竹原

1. 尾道市

尾道と言えば千光寺と林美美子が代名詞となっている丘陵地から海岸に広がる観光地である。尾道市における平成27年度における観光客数は6,747千人、前年度比105.2%の増加であった。観光客数では福山市に次いで第四位である。²

(1) 千光寺

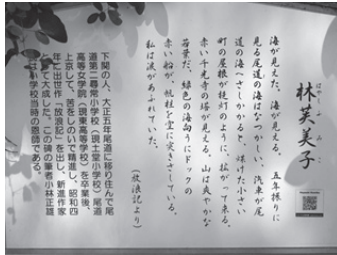


写真5. 林美美子の句碑
出典：千光寺公園内歌碑を撮影

明治27年（1894年）に千光寺の当時の住職が、尾道市内に遊園地の少ないことから併せて当山の参詣者誘致のため公園の設置を企画し千光寺公園を作ったと言われている。瀬戸内海が見渡せる小高い丘の見晴らしのいい場所に立てられている。千光寺本堂から展望台に到る「文学のこみち」に林美美子の有名な歌碑がある。林美美子以外にも十返舎一九、頼山陽、緒方洪庵、志賀直哉、正岡子規、徳富蘇峰など江戸から明治・大正・昭和の有名な歌人が千光寺にお参りした際に詠んだ句碑が並んでいて一見の価値がある。

2. 安芸の小京都竹原市



写真6. 竹原市のまち並み



写真7. 竹鶴酒造
筆者撮影

尾道から国道2号線を通って竹原市へ向かう。車で約30分程度である。

竹原は古くから山陽路の交通の要所として栄えたまちで、江戸時代のまち並みが保存されており、かつての街道沿いに旧家が立ち並んでいる。

平成12年（2000年）に国土交通省によって、まち並地区が「都市景観100選」に選定された。整然としたまち並みが京都に似ていることから安芸の小京都と呼ばれている。海から良質の海水を汲み取って、古くから塩田のまちとして栄えた。ニッカウイスキーの創始者、竹鶴政孝の実家が今なお竹鶴酒造として現存しており、屋内では観光客に利き酒を行っている。ここにも平成27年のNHK朝ドラ「まっさん」で有名となった竹鶴酒造がある。

3. 大崎上島

竹原市中心部から車上10分で竹原港へ着く。ここからフェリーで大崎上島北部の垂水もしくは白水に渡ることができる。大崎上島は近隣島しょ部と架橋されていない離島である。大崎上島へ

² 広島県HP「平成27年広島県観光客数の動向」～調査結果の概要引用

は安芸津港（東広島市）、小長港（呉市 大崎下島）、宗方港（今治市 大三島）からも渡航できるが、竹原港からのフェリーが1日32本出ており利便性が高い。近年観光に力を入れており、電動アシスト自転車やEVモビリティ（2人乗り小型電気自動車）の借出しも可能である。全周34kmの海沿い道路はサイクリストに愛好されている。

(1) 大望月邸（海と島の歴史資料館）



写真8. 望月家旧邸
筆者撮影

大崎上島は瀬戸内の海上交通の要衝として古い歴史をもつ。とりわけ望月家は江戸末期から明治にかけて廻船問屋として活躍した豪商であった。戦前田中義一内閣で通信大臣と内務大臣を務めた望月圭介を輩出した。旧望月邸（1876年築）は現在、島の文化を伝える資料館として一般公開されている。大崎上島の海沿い道路が整備されたのは戦後のことであり、それ以前は伝馬船で島の内外と交通していた。この建築には力強い梁を通した独自の魅力があるだけでなく、櫂と船、書画、蒐集美術品の展示をつうじて海上交通の歴史、並びに望月家の足跡を堪能することができる。

(2) 木江町並み

島の東岸に位置する木江地区は偏西風の影響が小さく、風待ちの停泊地として大正時代から戦後直後まで栄えた。色街やカフェの名残とともに遺構から往時の町並みを窺うことができる。町の海側入口には木造5階建ての建築があり、人家としては日本で一番高い木造建築物とされる。大崎上島では、船員が集う木江の盛栄ぶりが今でも語り草になっている。こうした歴史は、この島の主要産業に造船があることと無関係ではない。木江地区付近には現在も造船所が点在しており、製造途中のタンカーを目にすることができる。なお2013年の映画「東京家族」（山田洋次 監督）はこの地区山側の傾斜を主要ロケ地にしており、映画の舞台を訪れることもできる。

(3) 中ノ鼻灯台とその付近

木江から南に下っていき、島の南東部に到達すると中ノ鼻灯台がある（ホテル清風館へ至る途上）。明治27年以降、いまでも現役である。この灯台からの眺望は瀬戸内の島影が相並ぶ様子を捉える。灯台裏手には「木江ふれあい郷土資料館（通称 船の資料館）」があり、1階は海運交流室、2階は郷土資料館、3階は船室模型となっている。付近には弓張岩という史跡もあり、応永年間に沖浦葛城主土倉冬平がこの岩に弓を張り伊予の海賊を撃退したという説に由来する。大崎上島には以上で未紹介の古墳や史跡も多く、当地の郷土史研究会によって編集された「文化財・史跡名勝マップ」がそれらを網羅している。

第3章 しまなみ海道

しまなみ海道は尾道から向島^{むかいじま}、因島^{いんのしま}、生口島^{いくちじま}、大三島、伯方島^{はかた}、大島をつなぐ橋を通して愛媛県今治市を經由し広島までの70kmという長い海道であり、その風光明媚さや地域のまちおこし

² 総務省統計局「労働力調査」平成27年5月21日参照

により近年脚光を浴びている。またサイクリングロードとしても全国から多くの愛好家が集まり、サイクリングを楽しんでいる。

1. いくちしま 生口島

三原須波港からフェリーで生口島へ直行便があり、これだと28分で生口島に到着する。港から車で数分すると「平山郁夫美術館」と西の日光「耕三寺」が隣接している。

(1) 平山郁夫美術館



写真9. 平山郁夫美術館正面入り口
筆者撮影

平山郁夫画伯は、昭和5年（1930年）瀬戸田に生まれ、昭和20年（1945年）旧制中3年の時広島市で被爆。その後遺症に苦しめられながら、やがて玄奘三蔵（三蔵法師）をテーマとする「仏教伝来」を初めとする平和を願う作品を多く描いた。東京美術学校（現・東京藝術大学）では前田青邨せいそんに師事。平成元年（1989）第8代東京藝術大学学長に就任したが、平成21年（2009年）に亡くなった。妻の美知子氏とは東京藝術大学で知り合い、美知子氏が大学では主席で平山郁夫画伯が次席であった。美知子氏は結婚後筆を置いたようである。美術館正面入り口から入館入り口までのアプローチはまるで武家屋敷のようである。中に入ると広大な展示館となっている。

平山郁夫画伯は、昭和5年（1930年）瀬戸田に生まれ、昭和20年（1945年）旧制中3年の時広島市で被爆。その後遺症に苦しめられながら、やがて玄奘三蔵（三蔵法師）をテーマとする「仏教伝来」を初めとする平和を願う作品を多く描いた。東京美術学校（現・東京藝術大学）では前田青邨せいそんに師事。平成元年（1989）第8代東京藝術大学学長に就任したが、平成21年（2009年）に亡くなった。妻の美知子氏とは東京藝術大学で知り合い、美知子氏が大学では主席で平山郁夫画伯が次席であった。美知子氏は結婚後筆を置いたようである。美術館正面入り口から入館入り口までのアプローチはまるで武家屋敷のようである。中に入ると広大な展示館となっている。

(2) 耕三寺



写真10. 耕三寺
筆者撮影

西の日光と呼ばれ、耕三寺は大阪の実業家耕三寺耕三が母親菩提の追悼のために建立した浄土真宗本願寺派のお寺であるが、きらびやかな色合いは神社のような風情である。日光東照宮陽明門を模した孝養門を指して「西の日光」と呼ばれるようになり、瀬戸内海の観光地の一つとなり、昭和28年に、国の登録博物館として開館した。その本堂は平等院鳳凰寺を模倣した壮大な造りとなっている。

2. おおやまつみ 大山祇神社



写真11. 大山祇神社
筆者撮影

大三島に国宝の武具を沢山所蔵する大山祇神社がある。大山祇神社には8点の国宝をはじめ重要文化財・重要美術品など膨大な数の文化財が保存されている。中でも源義経や武蔵坊弁慶が奉納した武具は見ごたえがある。平安時代に朝廷から「日本総鎮守」という守り神の号を賜ったことから、この神社は大山積神と古事記にも記されている。そのため、古くから名高い武将たちがその武具を奉納し後世に残そうとしたものと思われる。

3. 村上水軍博物館

戦国時代から瀬戸内海全域の海上交通の権益を支配し、瀬戸内海を往来する全ての船舶に通行料を取り、許可を得た船だけを通行させ、無断で通行する船舶は容赦なく攻撃した、とされる「村上水軍」の博物館がしまなみ海道の最終地今治市の大島にある。村上水軍は因島（尾道市）、能島（今治市）、来島（今治市）の3家に分かれ、海の難所といわれた芸予諸島の航路を支配していた。1576年には毛利水軍と織田信長の水軍が激突した第一次木津川口の戦いで毛利方を勝利に導いた、とされる。のちに秀吉の海賊禁止令によりそれぞれ3家に分裂することとなった。平成26年（2014）に本屋大賞を受賞した作家和田竜りょう氏の小説「村上海賊の娘」が広島県後援の「瀬戸内しまのわ2014」開催と重なり、多くの観光客を集めて話題となっている。

第4章 呉市と「とびしま海道」

1. 呉市について

広島県呉市はかつて軍港として栄え、「海軍さんのまち」として知名度の高い所であり、現在も戦艦大和のドッグや最近設営された「大和ミュージアム」を見に来る観光客が多く、かつての目ぬき通りであった「れんが通り」はシャッター通り化しながらも、呉市の観光客全体としては増加している。

呉市における平成27年度の観光客数は4,618千人で前年度比109.4%の増加となった。観光客数では尾道市に次いで第五位である。³

呉市の人口は23万人、広島市内からは車で1時間程度である。現在は広島市内から高速道路も開通している。さらに呉市と東広島市を縦断する高速道路が開通したため、呉市へのアクセスは山陽自動車道経由で大変便利となった。呉市は瀬戸内海沿岸沿いに広がる丘陵地に家屋が密集した住居が多く、災害危険地域に指定されているような地域が多い。現実には呉市中心部を走ってみると、小高い丘に所狭しと住居が密集している。

また呉市は島しょ部が多く、7つの島は現在は全て7つの橋で架橋されており島の生活は大変快適で、風光明媚な観光地となっている。島の多くはみかん農園が盛んで「大長みかん」というブランドみかんもある。7つの島は自動車はもとより、現在は自転車によるサイクリングロードにもなっており、呉市はサイクリングロードの建設にも力を入れている。

(1) 大和ミュージアム

呉市の観光に寄与しているものとして先に触れた「大和ミュージアム」という文化施設がある。これは映画「男たちの大和」と時を同じくして建設されたもので、平成17年（2005年）4月にオープンし、映画のロケ地ともなった。ここに戦艦大和の十分の一の模型が展示されている。この「大和ミュージアム」はJR呉駅と隣接しており毎日大勢の観光客を呼び込んでいる。ミュージアムの背には「大和建造ドッグ」が見え、「やまとのふるさと」として今も保存されている。ここは何か日本人が忘れてはならない「心のふるさと」ともいうべき郷愁をかもしだしてくれるから不思議である。館内には戦艦大和の十分の一の模型が展示され、第二次大戦の遺品や搭乗員の遺影が沢山展示されている。また館内入口に大戦前後の様子や大和の技術などを紹介する映画

³ 広島県HP「平成27年広島県観光客数の動向」～調査結果の概要引用

が上映されており、戦後世代にも背景がわかるように説明している。

呉海軍工廠（くれかいぐんこうしょう）は海軍のいわば技術研究所兼製造所ともいうべき膨大な職員と設備を備えて、当時世界最先端の技術力を持っていた。ここで建造された大和の技術があったからこそ、戦後日本の技術立国としての繁栄があったといわれるように、大和には当時世界最新鋭の電子制御による大砲・機銃、操舵方法などが工夫されていた。

(2) 「石段の家」

呉市中心部にある両城（りょうじょう）地区に「石段の家」というのがある。両城200階段と言われ、市内からはまるで山城のようにそびえる高台で車では行けない場所に住居がやはり所狭しと並んでいる。ここは映画「海猿」で潜水夫の訓練シーンにもなった場所である。「石段の家」はNPO法人のくれ街復活ビジョンが再開発したもので、宿泊場所を観光客に提供している。料金は平日5名利用で一人2,400円（会員料金）からとなっている。非会員でも予約可能であるが、別途準会員料金が必要となる。この「石段の家」は呉市中心部では最も高い場所にあり、市内及び呉湾が一望できる。

(3) 佐久間艇長記念碑



写真12. 佐久間艇長の遺影

出所：佐久間記念交流会館発行「沈勇の人 佐久間勇 一十二時四十分ナリ」（2012）より撮影

前述の両城の家のすぐ近くに佐久間艇長記念碑がある。ここを訪れる観光客は意外と少ない。佐久間艇長は明治43年（1910年）4月10日、国産初の第六潜水艇にて13名の部下と共に山口県の新湊沖にて半潜航訓練中に沈没、二度と浮上することができなかった。艇の中で14名全員がそれぞれの持ち場を離れず、最期まで任務を全うした姿のままで引き上げられた。潜望鏡からのわずかの光をたよりに小さな手帳に死の直前まで書き続けた佐久間艇長の遺書がポケットから発見され海軍魂として内外に感動と深い感銘を与えた。特に英国海軍は毎年、佐久間艇長の慰霊碑（呉と福井県の若狭町の2ヶ所にある）に参拝を続けている。佐久間艇長は明治10年（1879年）

福井県若狭国三方郡（現在の若狭町）で北前川神社の神官の次男として誕生したため、現在も有志により佐久間記念館を保存している。

2. 安芸灘大橋と安芸灘「とびしま海道」エリア

呉市川尻町から安芸灘大橋を渡り、その南東に位置する安芸灘諸島の島々を結ぶ、8つの橋梁（総延長：約 5,300 m）の総称で島しょ部が架橋で結ばれ、その景観の美しさと地域住民によるまち並み保存の努力により広島県も観光に力を入れ集客がすすんでいる所である。

2-1. 安芸灘大橋

呉市を東へ走ると川尻という地域がある。ここから7つの島へ渡る「安芸灘大橋」が平成12年に開通したおかげで、島しょ部が一機に活気づいた。安芸灘大橋は呉市本土と下蒲刈島を結ぶ橋長1,175メートルの吊り橋で普通車片道700円の有料となっている。自転車と徒歩でも無料で渡る



図表2 「とびしま海道」エリア

出所：wikipedia.org/wiki/安芸灘諸島連絡架橋

写真13. 美しい安芸灘大橋の全景
筆者撮影

ことができる。平成24年度は26,000件の通行があり、呉市は国の過疎地域支援補助金により、土日・祝日に限り、安芸灘大橋を現金で利用した場合、安芸灘・とびしま海道エリア内にある指定施設で1,000円以上利用すると帰りの通行料金が無料になる制度を実施している。これにより、島しょ部への観光客を呼び込み、さらに指定施設の営業支援を見込んでいる。

2-2. 江戸の面影を残す御手洗地区のまち並み みたらい

安芸灘大橋を経由し、かまがり下蒲刈島、上蒲刈島、豊島を経て大崎下島の最東端に御手洗という地区がある。この地区は文化財保護法第144条の規定に基づき平成6年に国から重要伝統的建造物群保存地区に指定されており（全国で38番目の選定）、江戸時代に潮待ち・風待ちの港町として栄えた大小の商家、茶屋、船宿、神社、寺院など江戸中期から幕末の面影をとどめる建物や史跡が数多く残されており、独特の雰囲気（かも）を醸し出している。

御手洗という地名の起源は神宮皇后が三韓侵略の時、この地に立ち寄り、手を洗われた、という言い伝えからこの名がついた、といわれている。

細い路地の入口近くで神社に出会う。天満神社と言って菅原道真公が博多に流される際、船でこの地に立ち寄り、口をすすぎ、み手を洗われた、といわれている。

(1) 金子邸

菅原道真公を奉った天満神宮の対面に金子邸がある。金子邸に掲げられている説明文には次のように書かれている。「慶応2年（1866年）坂本龍馬の仲介で長州藩の桂小五郎と薩摩藩の西郷隆盛との間で薩長同盟が結ばれたが、広島藩も薩長土肥の各藩と連携しその動乱に対応することとした。慶応3年11月25日長州軍は家老毛利内匠の指揮のもと奇兵、遊撃、整武、振武、第二奇兵など7部隊が2隻の軍艦に分乗し、汽船鞠府号に先導され三田尻（防府）を出港、26日御手洗に到着した。広島藩はこれに合流するため、諸兵総督岸九郎兵衛以下が兵を率いて24日汽船震天

丸に乗り広島を出帆し、御手洗で長州軍が来るのを待っていた。そして金子邸にて長州軍との約定が結ばれ、その夜震天丸を先発として討幕軍は京都に向けて出発した。これが有名な御手洗条約である」。坂本龍馬・中岡慎太郎もたびたび来島し、ここで密談したという維新の激動の時代に重要な役割を果たした場所であることがわかる。金子邸には現在も子孫が離れで暮らしている。

(2) 七卿落遺跡（しちきょうおちいせき）



写真14. 七卿落遺跡
筆者撮影

文久3年8月18日、公武合体派のクーデターによって敗れた討幕派の公卿のうち三条実美公ら七卿が長州藩兵に守られ、京から都落ちしたあの有名な七卿一行が立ち寄り、宿泊した場所が現在も残っている。元治元年長州藩は真木和泉守を先発として兵を京都に進めたが蛤御門の変（禁門の変）で敗れた。この時、三条実美ら五卿は京都における長州藩の勢力挽回と共に入京しようとして長州を出て多度津（香川県）まで登っていたが、京都の敗北を知り長州に引き返した。その途中、7月22日から24日にかけてこの竹原屋（庄屋）で旅の疲れを癒した。なお、この竹原屋には維新のころ、オランダ商館のテレーマン・バクという人物が駐在して薩摩藩などと武器の密貿易もしていた。また文久3年から慶応元年に至るまで広島藩は軍艦購入のため、薩摩藩から金十両を借り、その返済方法として米、銅、鉄などを御手洗で薩摩藩に渡していた（御手洗交易）。このように御手洗港が維新の陰の舞台になったことは歴史家の知るところである（全文 七卿落遺跡地に掲げてあった看板を参照）。ここはもと庄屋であるが、門構えなどはお寺風の建物である。

御手洗地区は車で入ることができない細い路地が蟻の巣のように入り混じっている。住民によれば、昭和30年以前の建造物は呉市環境基本条例（平成11年3月16日制定）第17条などにより、もとの外観が維持・保存されなければならないが、改築する際には市の許可が必要である。そういう条例のもとで、現存する御手洗地区は昭和30年代以前の風情を残しているようである。またこの地区は例外なく大変清潔に保たれている。これは住民の意識レベルが相当高いことを物語っている。

おわりに

広島県が掲げた観光立県としての平成24年度における観光客数目標7000万人に対し、平成27年度は6,618万であり、目標には未達であるが着実に実績が伸びていることは事実である。特筆すべきは外人観光客数が大幅に増加していることである。広島県が掲げた平成24年度目標に対し、目標を達成しているのは唯一外人観光客数である。本論では広島県の観光を支えている福山市・尾道市・呉市など瀬戸内沿岸における観光資源については、野村が以前より取材を行ってきたが、今回は更に安田女子大学現代ビジネス学科古山講師が学科ゼミにて大崎上島の研究を行っており、今回その魅力を加筆戴いた。瀬戸内の素晴らしい景観もさることながら、大崎上島には今後のグローバル化に備えて学生の英語力を強化する体制整備が計画されており、「教育の島」として広島県下だけではなく、日本全国からも将来ある子供たちが集まって来ることが見込ま

れ、ますますこの地の名が全国に広がってゆくことと思われる。

参 考 文 献

- ・広島県商工労働局観光課「調査結果の概要」『ひろしま観光立県推進基本計画 平成27年広島県観光客数の動向』2-15ページ.
- ・山崎茂雄編『町屋・古民家再生の経済学』水曜社, 2016年, 46-63ページ.
- ・呉市産業部観光振興課『呉市観光ガイドブック』2013年.
- ・広島県商工労働局観光課・愛媛県経済労働部観光国際局観光物産課『瀬戸内もも旅ガイドマップ～映画「ももへの手紙」の風景を探して～』2012年.
- ・三浦正幸『鞆の浦を歩く』南々社, 2010年.
- ・ディスカバージャパン編集部編『いまめぐりたい瀬戸内トラベル』榎出版社2014年.
- ・佐久間記念交流会館発行『沈勇の人 佐久間勇 一十二時四十分ナリー』2012年.

[2016. 9. 29 受理]

コントリビュータ：森岡 文泉 教授（現代ビジネス学科）

